

令和7年度第1回石巻地域普及活動検討会

日時：令和7年9月1日(月)

午後1時30分から午後3時まで

場所：宮城県石巻合同庁舎401会議室

次 第

1 開 会

2 挨 拶 宮城県石巻農業改良普及センター所長 寺島英樹

3 内 容

(1) 令和7年度プロジェクト課題の取り組み状況説明

課題 No. 1 小ねぎ産地における次世代の人材育成

課題 No. 2 水田におけるばれいしょ及びさつまいもの安定生産

課題 No. 3 トマト黄化葉巻病の媒介昆虫タバココナジラミに対する防除体系の構築

課題 No. 4 省力化技術の活用による優良大豆種子の生産性向上

(2) 説明全体を踏まえた意見交換

(3) 次年度課題設定に向けた意見聴取

4 閉 会

令和7年度普及指導計画プロジェクト課題 概要

令和7年4月1日 石巻農業改良普及センター

課題名	計画期間	対象(地域等)	概 要
1 小ねぎ産地における次世代の人材育成 (継続課題) 「園芸振興」関連課題  温度抑制資材を展張したハウス (R06.09.6)  農福連携 (小ねぎハウス除草作業) (R06.09.26)	令和5年度 ～ 令和7年度	J A いしのまき スリムねぎ部会青年部 11 人	【背 景】 ○J A いしのまきスリムねぎ部会は 28 人で生産活動に取り組んでいるが、高齢化の進行や販売単価の低迷等により、生産意欲の低下がみられている。 ○部会には青年部 (11 人) が組織されており、青年部員が部会の主要な役割(部会長等)を担っており、部会の活動方針等については青年部員の関与が大きくなっている。 ○青年部員は、各々が課題を抱えているが、販路の拡大や共同選別の取組など部会の方向性について前向きに考えている者もみられる。 ○スリムねぎ産地として維持・発展を図っていくためには、青年部員の生産意欲を高め、部会を活性化することが必要となっている。 【これまでの活動・成果・今後の改善等】 ○現地巡回等により重点指導対象者 (2 人) の課題 (経費節減や労働力不足など) を明らかとし、課題解決に向けて情報提供を行いながら取り組みを進めた。 ○令和4年度の夏季高温による出荷量低下に対し、国の補助事業を活用し、青年部員 (4 人) が高温対策に取り組み、温度抑制効果を確認した。 ○部会全体に対し、高齢化等による出荷量低下について課題提起を行い、将来や課題解決に向けた議論の場を設ける。 【活動事項】 ○青年部員の個別課題分析・解決支援 ○青年部による産地活性化に向けた取り組み検討支援 【数値目標等】 ○出荷量が令和4年実績より上回る青年部員数 (人) 令和5年度実績値 2 人→令和6年実績値 3 人
2 水田におけるばれいしょ及びさつまいもの安定生産 (継続課題) 「園芸振興」関連課題  ばれいしょ現地検討会 (R06.06.19)  さつまいも出荷検討会 (R06.10.26)	令和6年度 ～ 令和7年度	(株)めぐいーと (東松島市:ばれいしょ) (農)おおしお北部 (東松島市:ばれいしょ) (農)エコルフーム (石巻市:さつまいも)	【背 景】 ○石巻地域では、平成 25 年からばれいしょ、令和元年からさいまいも栽培の作付面積が年々拡大し、令和5年度でばれいしょ 39ha、さつまいも 6.6ha となっている。 ○しかし、水田を利用して大面積 (概ね 10ha 以上) ばれいしょ生産では、連作回避や地域の農地利用調整上、毎年ほ場が変わり、作業量が多く、排水対策や病虫害防除が不十分となる場合がある。 ○「水田における大規模露地野菜」の課題である排水対策や病虫害防除、必要農機の適時利用や他作物との作業重複の回避、収益性の向上に取り組む。 【これまでの活動・成果・今後の改善等】 ○ばれいしょに取り組んでいる法人では、作付前に補助暗渠や額縁渠施工等を実施するなど排水対策に取り組んだが、ほ場ごとの排水性により収量差が見られた。 ○さつまいもは、排水性の良いほ場を選定して作付けを行い、生育も順調に進み、昨年よりも収穫量も多くなった。 ○ポテト通信を作成し、ばれいしょ及びさつまいもの生育状況や栽培技術等について情報提供を行った。 【活動事項】 ・ばれいしょ技術対策支援活動 ・さつまいも技術対策支援活動 ・情報発信活動 【数値目標等】 ・ばれいしょ平均収量 2.2 t / 10 a (令和5年実績) 収量 1.8 t / 10 a (令和6年実績) ・さつまいも平均収量 1.5 t / 10 a (令和5年実績) 収量 2.0 t / 10 a (令和6年実績)
3 トマト黄化葉巻病の媒介昆虫タバコナジラミに対する防除体系の構築 (新規課題) 「園芸振興」関連課題  トマト黄化葉巻病発病株 (R06.09.01)  タバコナジラミ (ルーラル電子図書館)	令和7年度 ～ 令和8年度	管内生産者5人 〔JA いしのまきで共販〕 〔している生産者〕	【背 景】 ○震災後、施設トマト栽培に取り組む生産者が増加し、JA いしのまきのトマト出荷量は県内一位となっている。 ○JA いしのまきで共販する部会は、石巻トマト生産組合、河南トマト部会、やもとトマト生産組合、いしのまき農協ミディトマト組合、JA いしのまきミニトマト協議会で構成されている。 ○令和5年度に、管内においてトマト黄化葉巻病の発生が確認され、発生後は拡大の様子がみられ、媒介昆虫タバコナジラミ (パイオタイプQ) の発生が確認されている。 ○生産者の病虫害に対する認識や意識は、それぞれで異なり、防除対策の実践水準にばらつきがあり、地域として防除対策の取り組みが求められている。 ○黄化葉巻病およびタバコナジラミ対策として、JA と連携した対策講習会の開催や、病虫害情報の発信を行っているが、重点的な現地指導で継続して対処する必要がある。 【活動事項】 ○病虫害発生状況の把握と対象者の意識醸成 ○効果的な防除手段の検討 【数値目標】 ○生産者による石巻地域の防除体系の策定 R8 年度 1
4 省力化技術の活用による優良大豆種子の生産性向上 (新規課題) 「アグリテック」関連課題  大豆高速畝立て播種機実演会 (R06.06.11)  大豆現地検討会 (R06.08.21)	令和6年度 ～ 令和7年度	(株)クリーンライス (石巻市) (有)高須賀農産 (石巻市) (農)アスターファーム (石巻市) (農)ドリーム真野 (石巻市) (農)たてファーム・和 (石巻市) 蛇田集産組合 (石巻市) (株)ばるファーム大曲 (東松島市)	【背 景】 ○宮城県は北海道に次ぐ全国2位の大豆生産地である。 ○石巻地域は県産大豆種子の約 20%を生産している。 ○種子大豆生産では、管内6法人、1生産組織が取り組んでおり、令和5年度は計 28.9ha が作付けされている。 ○管内では、湿害、高温の影響や紫斑病等の病虫害、雑草などにより、収量、品質が低下する事例が見られる。 ○特に、種子大豆生産では、病害粒等を取り除く手選別作業に手間やコストがかかり、種子生産から撤退や縮小の意向を示す生産者が出ている。 ○以上の要因により対象の増収・高品質や作業性の向上による効率化への意向は高まっている。 【これまでの活動・成果・今後の改善等】 ○管内では麦刈り後の播種遅れが課題となっており、収量に大きく影響する精度の高い播種について、RTK を活用した高速畝立播種機 (4 条) による播種機実演会を開催した。 ○栽培管理チェックシートの作成・配布したところ、各作業ポイントを再確認し、自組織の栽培に合わせた修正を考えている様子であった。 ○大豆種子生産での手選別については、関係機関と連携し軽労化のための試験的な機械選別を実施する予定である。 【活動事項】 ○収量・品質向上のための栽培技術指導 ○アグリテック活用による省力化と機械選別による軽労化 (作業時間、人数等) の評価 【数値目標等】 ○令和5度収量を 10%上回る組織 令和6年 (実績) 3/7

令和7年度 第1回石巻地域普及活動検討会

課題No. 1

小ねぎ産地における次世代の人材育成

計画期間

令和5～7年度

チーム員

◎松原馨一、山口義昭、阿部定浩、

國嶋広達、齋藤香奈



令和7年1月21日 スリムねぎ部会通常総会

01 国内の小ねぎ産地

国内における主な小ねぎ産地と商品名

都道府県名	商品名	農協名
福岡県	博多万能ねぎ	JA筑前あさくら（旧朝倉町農協）
佐賀県	うまかねぎ	JAからつ
大分県	大分味一ねぎ	JA中津下毛
高知県	やっこねぎ	JA高知
山口県	安岡ねぎ	JA山口県
愛知県	なごやっこ葱	JAなごや
宮城県	仙台小ねぎ	JA新みやぎ
宮城県	スリムねぎ	JAいしのまき

02 課題の背景

桃生地区では、小ねぎの個別農家が園芸における主な担い手

JAいしのまき 桃生スリムねぎ部会

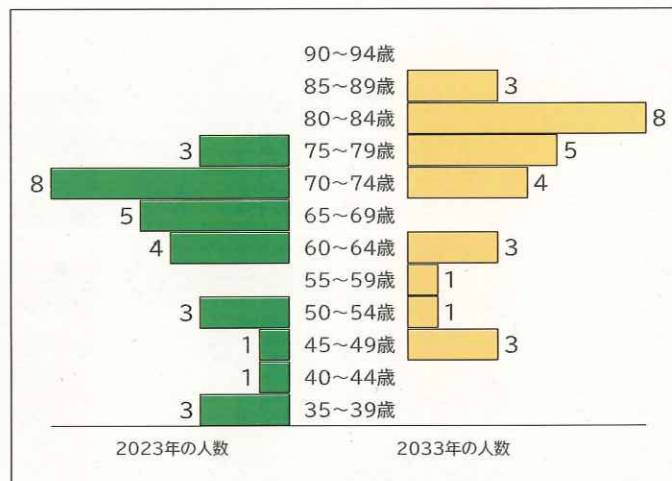
部会員数 28戸(60歳以上20人)

近年の年間出荷数量・販売額は減少傾向

10年後は高齢化が著しい…

が、これからの部会を担う
若手もいる！

いまのうちに次世代の
人材育成を！



スリムねぎ部会員の年齢構成

03 指導対象と目標

対象はスリムねぎ部会青年部員 11人

50代以下の部会員と、部会員の子弟で構成
(50代 3人、40代 3人、30代 5人)



目標

定性的目標

- ① 青年部員が自身の課題を理解し、改善に取り組む
- ② 産地の課題が共有化され、活性化への取組が検討される

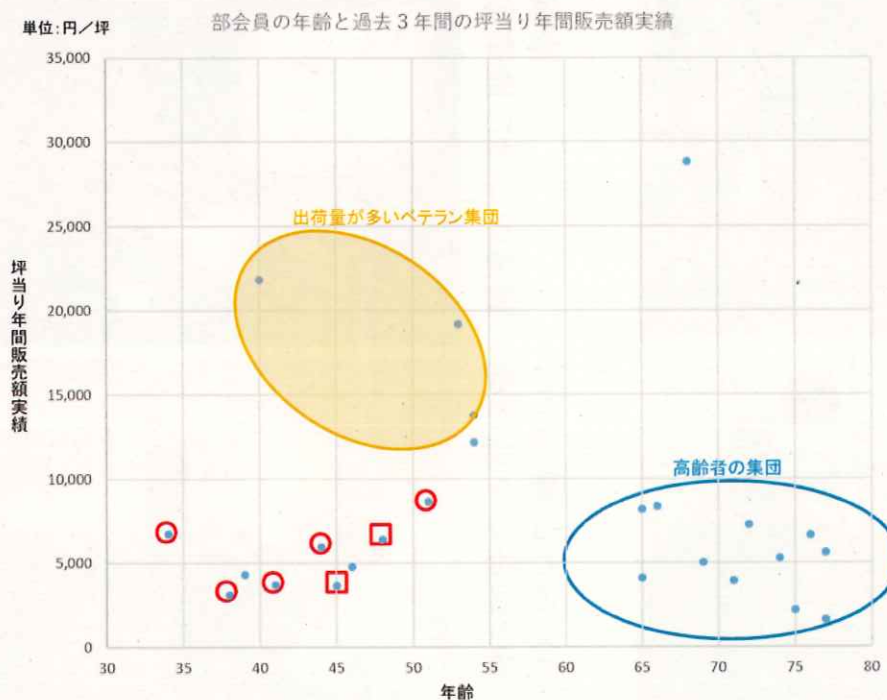
定量的目標

R4年産実績よりも出荷量が上回る青年部員数 4人

さあ！ スリムねざ部会の「これから」を皆さんで考えませんか？

06

上半期の取組①



07

上半期の取組②

仙台小ねぎ部会長による出荷規格の説明

仙台小ねぎの出荷調整



スリムねぎ栽培の手引き

令和6年度高温対策栽培体系への転換支援事業



いしのまき農協スリムねぎ部会
令和7年7月

定性的目標①	青年部員が自身の課題を理解し、改善に取り組む
所見	これまでの普及センターの支援もあり、一部の部会員は、スリムねぎ産地の担い手としての自覚を持ち、自ら積極的に生産技術の改善に取り組んでおり、出荷量が増加した若手部会員も3名となった。
定性的目標②	産地の課題が共有化され、活性化への取組が検討される
所見	現状を再確認した結果、スリムねぎの産地を活性化するためには、出荷量の拡大が不可欠であり、それを加速するため、共同選別場の導入を検討していくことが重要であることが、部会役員に再認識された。

今後の対応

若手部会員の出荷量を増やすことと、新たな担い手を確保・育成する体制を、部会に確立する取組を支援していく。

- 共同選別場の導入に向けた検討を支援
- 部会員の経営分析と経営指標の作成を支援



No.2

水田におけるばれいしょ
及びさつまいもの安定生産



令和7年度第1回石巻地域普及活動検討会

目次

- 01 検討課題概要について
- 02 課題の背景
- 03 活動内容と活動状況
- 04 活動の成果
- 05 今後の進め方

対 象： (株) めぐいーと
(農) おおしお北部
(農) エコルフーム

計画期間： 令和6～7年度

チーム員： ◎佐藤敏昭、本多 興
川戸菜摘、佐野佑真



県内のカルビーポテト用ばれいしょの生産状況

- 平成14年から大崎市松山の個人経営体の4haから契約が始まり、平成20年から美里町で5haの栽培を開始、大崎市、東松島市、登米市、亶理町、岩沼市、石巻市など、年々面積が増加し、令和5年度には最大91.9ha、現状で約80haとなっている。
- 石巻地域では、平成29年から(農) おおしお北部が3.5haの栽培を開始、令和4年度で最大29haまで拡大した。令和4年から桃生地域で栽培が開始し、令和7年は5法人、約44haの栽培となっている。このことから、石巻地域は県内最大の産地です。
- カルビーポテト株式会社では、将来(20年後) 500ha、15,000トン(3t/10a)の達成を目指している。

石巻地域の目標

- 栽培面積：100ha 収量：2.6t以上/10a
- 令和6年度宮城県ぽてと生産者大会
宮城県知事賞：(株) めぐいーと受賞、
高収量の部(知事賞次点)：(株) 入沢ファーム受賞

02

課題の背景

- ・水田利用 → ほ場の排水性に優劣がある
- ・大面積栽培 → 排水対策や適期病害虫防除が不十分となる場合もある



収量の減少や品質の低下



- ほ場の選定（土質・排水性）
- 徹底した排水対策と病害虫防除
- 連作障害防止やほ場利用効率を踏まえた輪作体系の構築
- 土づくり（良質な堆肥の施用）



03

活動内容と活動状況



ほ場毎の透水性調査R6実施→R7へ
ほ場選定の参考になったとの声も



R6巡回による排水対策効果確認
R7は5月31日降雨による被害無し



カルビーポテト株式会社のフィールドマンとの連携による支援

優良事例の紹介

みやぎ露地園芸PRパンフレット「水田で野菜をつくらう！より抜粋

ばれいしょ優良生産者(株式会社めぐいと(東松島市))

- 取組年数：3年目
- 経営面積：10ha
- 単収：3.4t/10a
- 所得(推計)：7.8万円/10a(交付金含まず)



取組1年目は大雨の影響で減収してしまいましたが、スタプルカルチや額縁明渠などによる排水対策を徹底することで、3年目に目標としていた3トン/10aを達成することができました。

【図3】地表排水対策のほ場イメージ



ここがポイント!

～灌漑の原因となる畝間の水を速やかに排水～

①地表排水対策

- ☑ 額縁明渠の施工(深さは30cm以上)
- ☑ 二重明渠の施工(畝間と額縁明渠を接続)
- ☑ 明渠から排水口への接続を確認

②地下排水対策

- ☑ 作土層直下の耕盤層の破砕
- ☑ カットドレーン等の補助暗渠の施工

※ほ場条件によって必要な排水対策は異なります。



(農)おおしお北部の排水対策



(株)めぐいとの排水対策



(有)サンダーファーム牛田の二重明渠へつなぐ作業



03

活動内容と活動状況



種芋カット作業 包丁も消毒



現地検討会の開催 6月25日



定期的な巡回支援(播種時)



定期的な生育調査の実施



桃生地域の3法人は、JAIいのまき桃生営農センター長の指導により、生育期間中適時に防除が出来るよう、ブームスプレーヤをほ場に置いたままにしている。



◎収穫後の土づくりに
対する意識の向上



R7,8.25撮影 (農)おおしお北部の収穫後の堆肥散布、すき込み作業

規格品は50g～360gまで



・収量調査結果 (普及C調査 生育が平均的な5株を調査)

法人	年度	株あたり 個数	株あたり 重量	10a換算 収量
(株)めぐいーと	R5	7個	878g	約2.6t
	R6	<u>10.2個</u>	<u>1,488g</u>	<u>約4.4t</u>
	R7	<u>5.8個</u>	<u>668g</u>	<u>約2.8t</u>
(農)おおしお北部	R5	6.8個	698g	約2.1t
	R6	7個	<u>1,051g</u>	<u>約3.1t</u>
	R7	8.2個	<u>803g</u>	<u>約3.4t</u>

※今年度は、7月の降水量が記録的に少なく芋の肥大に影響した。

◎収量の増加

株あたり個数の増加
収穫物の肥大促進

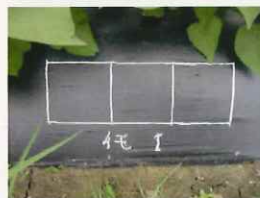
さつまいもの支援 生分解性マルチの実証試験(令和7～8年度)

(グリーンな栽培体系加速化事業 (農)エコルファーム)



スーパーロン#18 中期分解タイプ

イモイモマルチ 短期分解タイプ



現地検討会(8月29日)

さつまいもの生産拡大については、成果は現状ではみられないものの、農地整備地区の高収益作物として、検討している地区があり、引き続き生産振興したい。生分解性マルチの成果については、令和8年度に持ち越し。

・実績検討会(令和7年度産)

今年の作柄要因(天候、排水対策、病害虫発生状況等)を分析し前作や他産地と比較しながら、次年度産の収量向上に向けた改善策を検討する。

・理想的な輪作体系の検討

作付前の品目による収量の差異や作業体系を踏まえ、ほ場の利用効率化に向けた輪作体系を検討する。なお、後作に与える影響も検討する。

・ポテト通信、圏域版いも読本の発行

ポテト通信は今後2回(9月、1月)の発行を予定。さらに、いも読本の作成を予定、R7.3発行の加工用ばれいしょ現地事例集とともに、取組状況の周知と新規取組候補者の発掘に活用する。





No.3

トマト黄化葉巻病の媒介昆虫 タバココナジラミに対する防除 体系の構築



令和7年度第1回石巻地域普及活動検討会

目次

- 01 検討課題概要について
- 02 課題の背景
- 03 活動内容と活動状況
- 04 活動の成果
- 05 今後の進め方

01

検討課題概要について

対 象：管内トマト生産者5人
(JAいしのまきで共販している
生産者)

計画期間： 令和7～8年度

チーム員： ◎本多興、佐藤敏昭
佐野佑真、山口義昭、國嶋広達



02

課題の背景

- ・令和5年度にトマト黄化葉巻病が初めて発生
- ・出荷量減の被害を受ける
- ・新たなウイルス媒介害虫への対応となるため防除に
対する認識・意識と実践に地域内でばらつきがある



石巻地域でのタバココナジラミ発生傾向と他県や国
が推奨する対策への取組状況について把握と検討
が必要



○石巻地域でのタバココナジラミ
防除体系の構築

○防除体系の普及によるタバココナジラミ
と黄化葉巻病の発生抑制(病害の克服)



旧

新

オンシツコナジラミ



左：成虫 右：さなぎ

タバココナジラミ バイオタイプQ



左：成虫 右：さなぎ

課題の背景

2

トマト黄化葉巻病とは

- ・ トマト黄化葉巻ウイルスが原因の病気
(Tomato yellow leaf curl virus, TYLCV)
- ・ 海外から侵入した病害
- ・ 平成8年(1996)に静岡、愛知、長崎で初発生確認
- ・ 侵入後、全国に被害が拡大
- ・ 宮城県では令和4年(2022)に初発生確認
- ・ 令和5年(2023) 県内各地で被害発生

TYLCVによる被害

早期落花により、収穫が困難になる



他県や国の試験研究機関が推奨するタバココナジラミ対策 ＜農薬散布に加えて実施すべき対策＞

	対策の種類	導入のハードル	石巻地域での普及状況
1	目の細かい防虫ネット 0.4ミリ目合い	夏季にハウス内が高温になり着果に悪影響	未実施
2	天敵昆虫 タバコカスミカメ	コストが高い	未実施
3	黄色粘着テープ	コストがかかる	一部
4	捕虫器	コストがかかる	一部
5	夏季にハウスを閉め切った の高温処理	天候や植え替えスケジュールに左右される	一部

1 目の細かい防虫ネット

- 0.4ミリ目合い防虫ネット

左: ネットあり

右: ネットなし



2 天敵昆虫タバコカスミカメ

- コナジラミ類とアザミウマ類を捕食する天敵製剤

写真出典: アグリセクト社HP 費用: 200株あたり5,000円程度



タバコカスミカメ

3 黄色粘着テープ

- ・ うねの上部に展張する黄色粘着テープ

写真出典: (株)SDSバイオテックHP 費用: 15m × 20巻38,000円程度

ITシート



4 捕虫器

- ・ 捕虫器(スマートキャッチャー)

写真出典: (株)セイコーステラHP 費用: 10a2台設置で28,000円程度



活動内容1 病害虫発生状況の把握と対象者の意識醸成



黄色粘着版を設置(交換)



2週間後に付着数を計測



タバココナジラミ調査

粘着版の計測に合わせて
その畝の20株を
観察して生息数を計測



活動内容2 効果的な防除手段の検討



防虫ネットを張り天敵を使用するハウス(左)



使用している天敵タバコカスミカメ(出典:農文協)

農場主名 ●●さん

1 今年1月から6月のコナジラミ類対象の農薬防除履歴
※記入簡略化のため、コナジラミ以外を対象とした殺虫剤や殺菌剤については記入不要です

薬剤名	10aあたり 散布薬液量(L)	散布日
ディアン SO、コロマイト	250L	1/4
ウララ、コロマイト	300L	3/12
ダブルシューター	300L	5/10

2 今年3月から6月の殺虫剤による防除履歴
※記入簡略化のため、コナジラミ以外の防除も含めた防除履歴をご記憶で記入ください

該当する期間を○で囲んでください
3月 1週間に1回 / 2週間に1回 / 3週間に1回 / 1か月に1回
4月 1週間に1回 / 2週間に1回 / 3週間に1回 / 1か月に1回
5月 1週間に1回 / 2週間に1回 / 3週間に1回 / 1か月に1回
6月 1週間に1回 / 2週間に1回 / 3週間に1回 / 1か月に1回

3 今回の促成栽培で実施した農薬防除以外のコナジラミ類
※下記に修正があれば書き添えて記入ください

対策名称	
真化葉巻病耐病性品種の使用	×
ハウスのサイドの防虫ネット	○
黄色粘着テープのうねへの設置	○
定植時の結粒殺虫剤の使用(土耕栽培で)	—
捕虫器の使用	コナジー 20aに10台
収穫終了後の直しこみ(ハウス閉め切り)	あり → 5日間閉め切り

農薬防除履歴

(種類、実施時期、
散布量、頻度)

農薬以外の防除対策

(防虫ネット、粘着テープ、
捕虫器、・・・)

7月情報交換会での防除対策の相互紹介シート

活動内容3

共販している生産者への
情報共有

8月タバココナジラミ防除対策研修会

調査により把握し共販生産者と共有したこと1 **ハウス外からの飛込開始時期**

2週間累積でのコナジラミ類捕獲数

(黄色粘着板への付着数・・・飛び込みやハウス内繁殖による増加時期の目安)

農場名称	粘着板の場所	概ね2週間での捕獲数				
		5月			6月	
		上旬	中旬	下旬	上旬	下旬
A農場	入口から奥	0	0	2	4	3
B農場	入口から奥	0	0	0	15	—
C農場	入口から奥	0	0	0	1	1
D農場	入口から奥	91	235	畝の調査に移行		—
E農場	入口から奥	0	0	2	26	115

調査により把握し共販生産者と共有したこと2 **ハウス内での増殖開始時期**

調査日当日に対象の畝で見られたコナジラミ類の数

(調査対象畝の20株あたり)

農場名称	調査畝の場所	調査日当日の確認数				
		5月			6月	
		上旬	中旬	下旬	上旬	下旬
A農場	入口から奥	0	0	0	0	8
B農場	入口から奥	0	0	0	0	—
C農場	入口から奥	0	0	0	0	0
D農場	入口から奥	0	0	2	24	—
E農場	入口から奥	0	0	0	1	0

調査により把握し共販生産者と共有したこと3 **防虫ネットと天敵の効果**

概ね1週間ごとに黄色粘着版に付着したコナジラミ類の個体数

	0.4mmネット +天敵のハウス	0.4mmネット のハウス	対象区 ネットなしハウス
	殺虫剤散布無し	殺虫剤を散布	殺虫剤を散布
7月2日	4	3	23
7月11日	2	16	63
7月16日	0	20	28
7月25日	23	22	77
7月31日	16	62	488
8月6日	30	114	204
8月15日	27	128	584
10aコスト試算 (1年あたり)	天敵60,000 防虫ネット12,000	防虫ネット12,000 通常殺虫剤代	通常殺虫剤代

1 病害虫発生状況の把握と対象者の意識醸成

抑制栽培におけるコナジラミ類発生状況調査を継続し、発生傾向を把握

2 効果的な防除手段の検討

- ・防虫ネットと天敵の効果を引き続き調査し把握
- ・1月に情報交換会を開催し対象生産者と抑制栽培における発生傾向と効果的な防除手段について協議し知見を共有

3 共販している生産者への情報共有

農協各営農センターでの発生情報チラシ掲示などの手段により
対象生産者以外のトマト共販生産者へ情報共有



コナジラミ類（タバココナジラミ含む）発生状況のお知らせ
～トマト黄化葉巻病の発生防止に向けて～

石巻農業改良普及センター 6月 日

1、定点調査ハウスでのコナジラミ発生状況



2、対策のポイント

- ・普及センターの定点調査農場5農場のうち、5月中旬以降に上のグラフのとおり3農場で発生調査のために用いた黄色粘着板へのコナジラミ類の付着を確認しました。

令和7年度

第1回 石巻地域普及活動検討会

課題No.4

省力化技術の活用による
優良大豆種子の生産性向上



計画期間 令和6～7年度

目次

- 01 検討課題概要について
- 02 課題の背景
- 03 課題の目標・R6年度の成果
- 04 活動内容・活動状況
- 05 活動の成果
- 06 今後の進め方



01

検討課題概要について

対 象： (株) クリーンライス
(有) 高須賀農産
(農) アスターファーム
(農) ドリーム真野
(農) たてファーム・和
蛇田集団転作組合
(株) ぱるファーム・大曲

計画期間： 令和6～7年度

チーム員： ◎佐藤泰久 今関美菜子
阿部定浩 川戸菜摘 齋藤香奈



02

課題の背景

・県内有数の大豆の産地

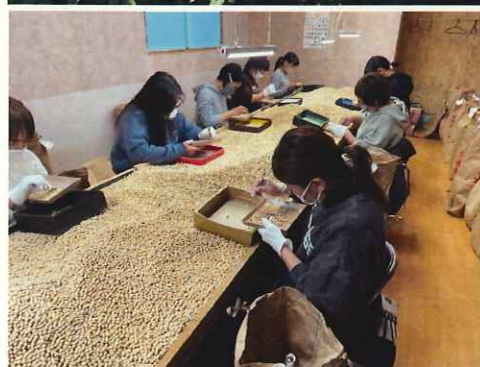
石巻地域では県内大豆出荷量の約22%を占めている。
また県産大豆種子の約20%を生産している。

・不安定な作柄

管内大豆は令和4年、5年と気象条件や病害虫、収穫時には場に残る雑草、高温障害によって収量、品質が低下する事例が見られる。

・手選別の負担

種子としての品質を確保するため手選別が必要。
手選別にかかる労力・人件費が負担となっている。
種子大豆生産に対し撤退や縮小の意向を示す生産者が
出ている。



03

課題の目標

目標

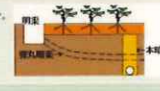
- ・種子大豆生産者の栽培技術が高まり、収量や品質が向上する。
- ・アグリテックの活用や色彩選別機活用により、軽労化しながら作業精度が向上し、また、手選別の労働負担が軽減する。
- ・R 5 年収量を10%上回る組織数
R 6 目標：3 組織（R 6 実績 4 組織）
R 7 目標：5 組織

令和 6 年度の成果

- ・現地指導や栽培管理チェックシートの活用により、各生産者が、それぞれの課題を認識した。
- ・自動操舵による高速畝立て播種機や営農管理システムによるデータ管理などアグリテック活用に対する理解が深まった。
- ・手選別にかかる労力・経費などの現状および改善の必要性について意識共有が行われた。

大豆栽培チェックシート (案) ～現場準備編～
R6 6 石巻農業改良普及センター作成

番号	作業	種子生産の注意
月日		出来た、出来なかった要因
①	作付準備	排水良好な場所を選定したか。
②	排水対策	土が乾いているときに順耕犁を施工したか。
③	排水対策	→は場の白腐や漏水口への監視はされているか。
④	排水対策	→排水の深さより漏水口の方が低くなっているか。 (Noの場合、⑤-1)
⑤	排水対策	土が乾いているときに排水設備を施工したか。 * 設備設備のほ場では気を付けて施工しましょう
⑥	排水対策	→排水設備を明確の 側面下部に接続したか。
⑦	排水対策	→排水設備の水平を測ったか。
⑧	土壌改良	土壌改良を行ったか。(石灰土、ようりんの施用など)
⑨	種子消毒	種子消毒をしたか。



栽培管理チェックシートを
活用した作業確認

04

活動内容・活動状況

活動項目 1：収量・品質向上のための栽培技術指導



- ・種子大豆播種前研修会
難防除雑草対策や排水対策に
ついて指導



- ・適期作業支援
(現地検討会)



- 乾燥対策のため
畦間灌水の実施状況

活動項目2：アグリテック活用による省力化と機械選別による軽労化（作業時間、人数等）の評価



・自動操舵による中耕培土の省力化・作業精度の調査



・ドローンによる省力的防除
（写真は対象外の地区）

活動項目1

○収量・品質向上のための栽培技術指導

- 病害虫の適期防除の実施（アブラムシ、チョウ目、ハダニ）
- 難防除雑草対策の実施（早期の茎葉散布剤、手取りで対応）

活動項目2

○アグリテック活用による省力化と機械選別による軽労化

- ドローンを新規導入し適期防除が可能となった。
- 自動操舵による中耕培土は、作業精度はほぼ同等で、精神的な負担や疲労度は軽減されることが確認された。
- 選別の作業の省力化のため紫斑病の徹底防除を計画。

活動項目 1

- ◎病虫害防除、適期収穫作業の支援
- ◎紫斑病等の発生状況・品質・選別精度の確認
- ◎検討会の開催

活動項目 2

- ◎ドローンによる適期防除支援
- ◎色彩選別機の活用、徹底防除の効果など選別作業の軽労化支援
- ◎検討会の開催

